室町時代物語

七

横山重編

古典文庫

横山　重編

宮所時代物語

七

古典文庫

古典文庫第二三三冊

昭和四十一年十二月十日　印刷発行　©　（非売品）

編者　横山重

発行者　吉田幸一

東京都板橋区熊野町三四

印刷者　帝都印刷製本株式会社

室町時代物語

七

発行所　東京都（王子局区内）北区西ケ原町三ノ三四　古典文庫

電（九一九）二七一七

振替口座東京一四五九七番

凡　例

一、古典文庫の「室町時代物語」の第七冊として、「さころも」四篇を収めた。

一、解題の条では、本書に掲出の諸本の他、われわれが見ることのできた諸本について簡単な書誌を記し、本の所在も明記した。但し、現在はその所蔵者が移動しているものもあることを御断りして置く。

一、本書に飜刻するに当っては、次のやうな方法によった。

イ、底本の文字は通行の文字に改めた。

ロ、私に句点を多く入れた。

ハ、特に別行を多くつくった。

一、本書を刊行するに当って、原本披見の便を与へられたる所蔵者諸家に感謝の辞を捧げる。

昭和四十年四月　　横山　重

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb

目次

一、慶長二年写本（慶応義塾図書館蔵）……五
二、無刊記丹緑本（架蔵）……四九
三、大形奈良絵本（加賀豊三郎氏蔵）……八九
四、半紙本奈良絵本（武田祐吉博士蔵）……一四九
諸本の解題……一八三

狭衣の中将　一帖

慶応義塾図書館蔵

〔狭衣の中将〕

むかし、くわんむてんわうの御とき、日ほんあきつしま、わかちやうのことにやありけん、ときの大しん、をはしましけり、その御子に、さころものちうしやうときこへしは、みめかたち、人にすくれ、しいか、くわんけんに、くらからす、うたをよみ、しをつくり、なにわのことにつけても、ならふ人こそ、をはせさりけれ、さては、てんかの御たからとて、もてなしたまふ事、かきりなし、見る人、たかきも、いやしきも、女のしやうをうけて、心をかけすといふ事なし

されは、ときのきさきたちも、これを御らんして、たかきくらいもよしなし、にんけんにむまれは、あのさころものやうなる人と、ちきりをむすひてこそ、うき世にすむかひも、あるへけれとて、わりなきまても、御心にかけさせたまふほとの人なれは、いつくしなんとは、中〳〵、おろかなり

さころもと、御なを申御ことは、御とし十五と申せしに、大りへめされたまふ、九月の十三夜の月、くまもなかりけるに、らうゑいのしをなかめ、ふへうちふきて、たゝすみたまふに、心あるもなきも、みな、つみとかも、かむ(マヽ)へきこゝちそ、したまひける

されは、天人も、めてたまひけるにや、あまのはころもをぬきすて、やうかうならせたまふより、いよ〳〵いつくしく、なりたまいぬ

色〳〵に、そてはかさねて、人しれす、おもひそめてし、夜わのさころもとよみたまひしによつて、さころもとは、申なり

されは、くきやう天しやう人の、きんたちをはしめて、たかき、いやしきも、卅一人のひめきみたち、すへならへたまいても、見よとたにも、とわせたまわねは、あるいは、こひにしつみ、むなしくなりし人も、おはしましけり

御とし廿一と申、二月十二日に、うちよりおさせたまふとて、あわたくちのほとりにて、おうはら山のくるまに、下すたれかけたるに、そうのころものはつれ、みへけれは、ちうしやう、おほすやう、これは、にようはうの、のりたるくるま

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb

にてあるとおもふに、そうののりたる、ふしきさよと、おほしめすほとに、すいしんさうしき、これをみてまいれと、おほせける

すなわちみて、申やう、すたれのすきまより、見ゆへは、にようはう一人と、そう一人と、のりてゆと申されけれは、はしめより、やうあると、見つるそこそ、(マヽ)

それおろせと、おほせられけれは、すいしんさうしき、よりて申、いかなるそうなれは、女はうと、のりあひたまふそ、はや、おりさせたまへ、おろし申へしと、にか〳〵しく申けれは、おそろしとや、思ひけん、とひおりて、にけにけるともにありける、こていわられをとらへて、車よりおりつるそうは、いかなる人そと、たつねけれは、わらは申やう、これは、きよ水におわしまし、やことなくたつと申人にて、おわしましゆ、いかなるふしきにて、かくゆやらんと、このありさまを御らんして、心をうつしたまひけり、ひめきみ、うつまさにこもりたまふを、たはかりいたしまいらせてゆと、ありのまゝに、かたり申おのれをかへさしとおもへとも、ありのまゝに、申たるけしやうに、いのちをは、たすけたるそとて、おひにかしはんへりける

そのゝち、此車に、ちうしやう、のりうつりたまいて、姫君の御ありさまを、御らんするに、ゑんてんたるよそおひ、秋の月に、ことならす、おもはゆけなるかほはせ、さんかにちる花よりは、なをすくれたり、たとへかたなく、いつくしき女はうの、車のかたはらに、ふしたまへり

中しやうは、御らんして、心もあくかれて、いかゝはすへきとそ、のたまへとも、いらへたに、したまわねは、中しやう、おもひかね、此人を、はちしめはやとおほすほとに、こと葉をつくして、物を申に、一ことの御返事のなき、なさけなさ、いかなる岩木なりとも、これほとに、かたくはあらしそかし

けにも、何とてか、よしとは、おほしめすへき、めしくせられたる御そうをは、なさけなく、おろしまいらせて、おもわすかたにて、まいりあひたらんを、いかゝ、うれしとおほすへき、けに〳〵、御ことはり也、いとま申てとありける

そのとき、かのひめ君、はつかしくおほしめして、すこし、御かほゝあけたまひ、ちうしやうの御すかたを、見たまふに、よのつねの人にては、おわせさりけれは、すこし、なつかしくや、おほしけん、なにを、かくしまいらすへき、うつまさに、

ともりてはんへりつるを、はゝにてゐ人の、心ちれひならすとて、むかひをたひてゐほとに、いてゐへは、みちにて、ありつるそう、車にのりて、御はゝのいたわりは、そらことなり、おもわさるところへ、くしまいらせむといゝつるほとに、時のまにも、きえなはやと、かなしくゐつるに、又かやうの人に、見へたてまつれは、御はつかしく、せんかたなくゐと、さも、ものはつかしけに、いきのしたにて、おほせけれは、ふしきに、あわれなる事哉

まいりあひたるも、此世はかりの、ゑんならすとて、みちすから、いろ〳〵に、ちきりたまへとも、ひめ君は、たゝ、わかすみかへゆかんとて、なきかなしみたまひける

さらは、いつくと、おほせゐへ、すくに、をくりつけまいらせん、かやうに、とかく、人めも、あしかりなんと、やう〳〵に、申たまひけるほとに、ひめ君は、なのめならす、よろこひたまひ、なのらしと、おほしけれとも、をくりつけまいらせんとあるうれしさに、なのりたまひける

あすかひの、水にやとれる、月なれは、くもりありとは、たれか見るへき

とありけれは、さては、此ほと、世にきこへたまふ、二でうのにしのとういんの、そつのちうなこんの御むすめ、あすかいのひめ君なりと、思ひたまひけるみちすから、御物かたり、たかいにして、のたまふ、ひころより、あわれと、おほしめしたるそうなれは、御心のうち、をしはかりてこそゐへ、さためて、此くれには、まいりて、ひるのふしきなりつる事とも、かたりあわせまいらせゐはんすらん、いかゝして、夕さりまいりて、人の御いつわりをも、見まいらせへきと、おほせられけれは、姫君、此くれに、たちよらせたまいて、まことゐつはりのほとを、御らんしゐへと、おほせけれは、かならす、此暮わと、のたまひて、ちうしやう、かへりたまひぬ

さるほとに、いかにして、とく出させたまひたるそとて、ちゝはゝ、ふしきなりと、おほせけれは、風の心ゐつるほとに、おちのもとより、をくりてゐと、のたまひける、はゝうへも、よろこひたまふ、中しやうは、とくして日の暮よかしとて、心ひとつに、いてたちたまふ

やう〳〵日のくれは、しのひて、車にて、こしよへそ、おはしける、中しやう、

ゆきて、きちやうのひまより、のぞみたまへは、ひめ君は、ひはちにむかひて、はいかきしてそ、おはしけるすかた、ともしひにかゝやきて、いつくしさなんとは、中〳〵、申もおろか也

さて、夜ふけぬるほとに、うちへいらせたまいて、ちかくより、御物かたりしたまふ、いよ〳〵中しやうは、露ほとも、はなれかたく、おほしめしけり

ひめ君、さて、人の、御なをは、何と申そ、おほせゆへと申は、中しやう、かくこたへける

ふちころも、きたる身なれは、かくれなし、おりけむ人を、たれととへかし

とよみたまひけれは、ひめ君、ふちころもとは、いかなる事やらんと、けせうちうに、おくれてきたるころもこそ、ふちころもとはいゝしに、又、かもの大みやうしんの御まへをとをりしに、人の、車におりすして、のりなからとをりけれは、とかめられしに

ふちころも、きたる身なれは、おそれなし、おりよとおもふ、神はあらしな

とよみたる事のなゝれは、ふちころもとわ、こゝろへぬことかなとは、おもひな

から、又かへしてとわん事も、はつかしと思ひて、心へたるよしにてそ、おける、さころもとは、ゆめにも、しらせたまわす

中しやうは、かやうに、よりあひてゐ事、此世ならすこそゐへ、にくしとおほしめすなよと、おほせけれは、ひめ君、なれ〳〵、なにとてか、にくしとおもひまいらせゐへきと、たかいに、うちたわむれたまひて、その夜あくるほとなさ、ゆめ見るほとも、なかりけり

八こゑのとりも、つけわたり、おきわかれたまひて、なこりをしさこそ、物うくおほすらん、さすか、人めをつゝみたまふ御なかなれは、又くるゝ夜をちきり、御かへりあり

それよりして、一よのへたても、ましまさす、とし月かさなりけるほとに、御たゝならす、おはしましける、しのひ〳〵の御事なれは、ちゝはゝは、ゆめにも、しろしめさす、中しやう、心くるしくおもひなから、わかちゝはゝの、あわせたまひたる人を、何とて、ゆへも、おもひいたさん事も、さすかなり、しせん、ぬしもかなと、おもひあわせて、すこしたまひけるに、君のせんしさて、(マヽ)つくしの

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb